



2022 FIM Endurance World Championship RACE REPORT

SDG Honda Racing / SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.



■SDG Media Infomation

2022 FIM 世界耐久選手権 第3戦

“コカ・コーラ” 鈴鹿 8 時間耐久ロードレース 第 43 回大会

三重県・鈴鹿サーキット（1周 =5.821km）

8月4日（木）：公式車検

8月5日（金）：公式予選

8月6日（土）：TOP10 トライアル

8月7日（日）：8 時間耐久決勝

観客動員数：44,000 人（4 日間合計）

EWC クラス SDG Honda Racing #73

ライダー：名越 哲平 / 榎戸育寛 / 浦本修充

マシン：Honda CBR1000RR-R タイヤ：BRIDGESTONE

予選：8 番手 (best : 2 分 06 秒 733 ave : 2 分 07 秒 287)

TOP10 トライアル：5 番手 (2 分 06 秒 409)

決勝：43 位

- 1 Motegi
- 2 Suzuka
- 3 Autopolis
- 4 Sugo
- 5 Tsukuba
- ★ Suzuka 8H
- 6 Autopolis
- 7 Okayama
- 8 Suzuka



2 周目にアクシデントに巻き込まれ激しく転倒 3 時間かけて修復しゴールを目指した



新型コロナウイルスの影響を受け、2020年、2021年と中止となっていた鈴鹿8時間耐久ロードレースが3年振りに開催された。昭和電機株式会社としては、初めてHARC-PRO. をメインスポンサーとしてサポート。SDG Honda Racingとして、全日本JSB1000クラスを戦う名越哲平、広報社員でもある榎戸育寛、そしてスペインスーパーバイクを戦っている浦本修充が加わってエントリー。6月、7月の事前テストを経て、レースウィークを迎えていた。



EWC #73 Tepppei Nagoe

今年は、火曜、水曜にテスト走行が設けられ、鈴鹿8耐久上、最長のレースウィークとなった。木曜日の公式車検をはさみ、金曜日には、公式予選が行われた。朝に2時間フリープラクティスがありマシンを確認。予選は、各ライダー2回、セッションがあり、ライダーブルーの名越からタイムアタックに入る。名越は2分06秒733の好タイムで5番手につけ、続くイエローライダーの榎戸も気合いを入れてコースインしていく。しかし、計測1周目のデグナーカーブ進入で強引にインに入ってきたライダーがいたため、これを避けるためにラインを外してしまい転倒を喫してしまう。幸いケガはなかったが、マシンはダメージを受けてしまったため、チームは修復に追われてしまう。さらに続くライダーレッドの浦本のセッションは、何と雨が西コース側から降り始めてしまう。トップタイムを出したライダーは、セッション開始直後にアタックし2分10秒566をマークしており、予選通過の基準タイムをクリアしたライダーは10番手まで。35台が基準タイムに足りず、その中に浦本も含まれていた。榎戸に続き、浦本も2回目のセッションでは、何としてもタイムを出さなければならない状況となってしまう。



EWC #73 Ikuhiro Enokido

そして2回目のセッションを迎える。ライダーイエローの榎戸は、2分07秒840をマークし2番手につけ、まずはひと安心。しかし、ライダーレッドの2回目の走行が始まるころには、再び雨が降り始めてしまう。

我先にコースインしようとピットロード出口には、マシンが集結。雨の中をスリックタイヤでリスクを覚悟でアタックし、浦本は何とか基準タイムをクリア。2名の平均タイムでは8番手となり、土曜日のトップ10トライアルに進出した。



EWC #73 Naomichi Uramoto

各チームのライダー 2人が、それぞれ1周のタイムアタックを行うトップ10トライアル。今回は、コンディションの変化が予想されるため、40分の計時予選で争われることになる。ここで浦本は、さすがの走りを見せ2分06秒409をマーク。予選よりポジションを3つ上げ5番手グリッドからスタートすることになっていた。



日曜日は朝方こそ雲が多かったが、スタート進行が始まるころには、晴れ間が広がり鈴鹿8耐らしい厳しい暑さとなってきた。



EWC #73 Naomichi Uramoto

スタートライダーは、3人の中で一番経験のある浦本が担当。ル・マン式スタートで予定通り11時30分に決勝が始まった。浦本は好スタートを見せ4番手につける。トップグループにつけ周回を重ねていこうとしていたが、2周目のスプーンカーブにさしかかったところ転倒した後続のマシンがSDG Honda Racingのマシンに激しく接触。浦本はマシンから投げ出され、何度も回転しながらすべっていく大きなケガがなかったのは不幸中の幸いだった。このアクシデントのためセーフティカーが導入され、マシンは回収されてピットに戻ってきたが、損傷は激しかった。それでもチームは、必ずコースに戻すと迷うことなく修復作業に入る。そして約3時間が経過したところで、榎戸がコースイン。3人のライダーがハイペースで周回。浦本も痛む身体を押して2スティントをこなした。最後の走行は、たつての希望もあり、予定を急ぎ変更してチェッカーライダーを名越が担当。夕間の鈴鹿サーキットを着実に走りチェッカー。臨んだ結果は得ることは、できなかったが、来年の鈴鹿8耐に続いていくはずだ。



EWC #73 Ikuhiro Enokido

■名越哲平コメント

「3年振りの鈴鹿8耐は例年になく長いレースウィークになりましたが、皆さんが待ち望んでいたレースだと思っています。結果は浦本選手が序盤に後続に追突されてしまい転倒という残念なアクシデントに巻き込まれてしまいました。それでもチームは、すばやい作業でコースにマシンを戻してくれました。現地へ駆けつけてくださった昭和電機応援団の皆さんを始め、協力していただいた皆さんの思いが力になってチェッカーフラッグを受けることができました。鈴鹿8耐は、あらためてすばらしいレースだと思いましたし、難しいレースだと思いました。また来年、もっとチームを引っ張っていけるライダーになれるように頑張っていきます。多くの応援ありがとうございます」

■榎戸育寛コメント

「チームを始め、応援してくださった皆さんのおかげで初めて鈴鹿8耐を走ることができました。レースウィークだけでも、いろいろなことがあり、いろいろな思いが交錯しています。結果は、本当に悔しいですが、貴重な体験をさせていただきました。この経験を糧に、シーズン後半戦でいい走りをして、来年の鈴鹿8耐では、笑って終われるように今から取り組んでいきたいと思っています。昭和電機応援団の皆さんを始め、多くの応援ありがとうございます」

■浦本修充コメント

「3人ともレースウィークを通して、いいペースで走ることができていましたし、表彰台を狙えるパフォーマンスを見られる手応えがあっただけに悔しい結果になってしまいました。あらためて鈴鹿8耐というレースの難しさを感じています。ただ、名越選手と榎戸選手と一緒にレースができたことは、すごくいい経験になりました。この機会を与えてくださったチームにも感謝しています。ありがとうございます」

